

障害者のサツマイモ給食に

障害者の就労支援事業所「Fee1」（江南市赤童子町）の利用者らが収穫したサツマイモが七日、同市の小中学校の給食に使われた。障害者の働き先を増やし「農福連携」を推し進める取り組みで、事業所スタッフたちは「障害者に対する偏見をなくすことにも役立てたい」と期待している。

（鈴木里奈）

二日、同市内の畑であったサツマイモの収穫。利用者らと施設スタッフは協力し、畑のツルや黒いマルチシートを取り除き、トラクターで土を掘り起こした。スタッフがある程度土を手でかき分け、紫色のイモが見えると「ここだよ」と指さす。利用者の男性は力を込めて、いくつも連なった丸々としたイモを丁寧に引き抜いた。

市内十八カ所の畑で、無農薬栽培してきた。今年は雨が続き日照時間が少なく、細いイモが多いというが、三百以上を収穫した。JA愛知北を通じ、江南市に出荷。今回、初めて市内の学校給食にも障害者が生産した農作物を取り入れ、七日と十二日のみそ汁の具として使われることになった。

Fee1を運営する、一般社

団法人「はーとプロジェクト」代表理事の大森秀樹さん（左）は「将来的には説明する場を設けて、障害者が作った野菜について知ってもらいたい。子どもたちから親しむことで、偏見を減らすことができるのでは」と期待。また、内職に比べて景気に左右されにくい農業を、障害者の働き先の選択肢として定着させる後押しになるとの希望も抱く。

農林水産省が認定する「農福連携技術支援者」の資格を持つ、法人本部長の藤岡和俊さん（右）は「農業は土づくり、種まき、除草、収穫などいろいろな作業があり、その中に障害者の能力を使える作業が必ずある」と指摘。「特性を理解し、適した指示を与え、適した道具を使えば、健常者以上の働きをする」ともある。正確な

江南「Fee1」農福連携で「偏見なくしたい」

サツマイモを収穫した利用者たち＝江南市上奈良町で



全、迅速に作業ができるよう「われわれの役割だ」と力を込め、技術支援をしていくのがわかった。